

学校番号	15	学校名	東部特別支援学校伊東分校	記載者	上村 一成
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

(1) 学習環境を充実させ、健康で、安全・安心な学校生活を確立する。（守る）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
(1) ア	安全・安心を守る学校組織の機能の充実	自分の役割や行動について確認することができた。防災マニュアルを検討し、改善できた。	A	A	地域住民との防災会議は大切であり、今後も毎年継続的に実施をする必要がある。避難所生活等、地域住民にも分校生の障害を理解してもらう必要がある。
		研修や訓練をとおして自分の取るべき行動が分かり、曖昧な点を確認することができた	A	A	
(1) イ	学習環境の整備	校内の整理整頓に努めた。危険な箇所や状況を確認し可能な対応策をとることができた。対応状況を共通理解できた。	A	A	新型コロナなど、今後も自然災害や病気等、新たな状況に応じた対応が、いろいろ必要になると思われる。
(1) ウ	人権を尊重する教育の充実	教職員が、気になる言動を具体的に確認しあい、人権に配慮した対応及び改善がなされた。	A	A	人権チェック表の、自他ともに気づき高めあう意識の取組がよい。

(2) 専門性に基づく的確な教育課程による指導をとおして、自己実現に向けた教育の充実を図る。（育む）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
(1) ア	個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく個に応じた指導	アンケートやケース会検討をもとに、面談時に共通理解を図る。改良した教育支援計画・指導計画の効果的・効率的な活用について、検証し改善に努める。	A	A	新様式を、効率的・効果的な活用につなげていくことが必要である。
(2) イ	研修による授業の充実と専門性の向上	研修計画に沿って児童生徒のアセスメントを行い、新学習指導要領を踏まえた目標を設定して授業実践を行うことができた。	A	A	専門性の向上と、個に合わせた教育の取組を今後も継続していただきたい。 ICT社会であり、児童生徒も教員も、「ICT」の活用を継続していくことを期待する。
		ICTの活用方法やソフトの紹介、研修が参考になった。ICTを活用した授業を実践した。	A	A	
(2) ウ	関係諸機関との連携の強化によるキャリア教育の充実	児童生徒・保護者の卒業後の生活や将来の希望を意識した、授業実践や啓発ができた	A	A	企業として、障害者就労の依頼を受けることがある。企業は、障害者の対応等について十分ではない。学校からの発信や相談機関の紹介などもあるとよい。
		必要な情報提供や、対象となる児童生徒の支援会議を実施した。連携支援の情報が、校内で共有できた。	A	A	

様式第5号

(3) 地域に積極的に係ることをとおして、「地域の中で育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」をめざす取組の充実を図る（つなぐ）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
(3)ア	交流における交流及び共同学習の推進	相手校と、伊東分校の両方の児童生徒にとって活躍する場面や良いあらわれが見られた。	A	A	学校間交流…西小児童は分校との交流を楽しみにしている。
(3)イ	<b>地域における交流及び共同学習、地域資源活用の推進</b>	<b>学習の場に広がりが見られ、児童生徒が地域の中で学ぶことができた。地域の、分校に対する理解が深まった。</b>	A	A	<b>分校だよりを回覧版でみる。新聞掲載記事も目にする。そのような紙媒体の発信はよい。商店街など、地域で分校生を見かける機会が多かった。</b>
(3)ウ	地域における特別支援教育のセンター的取組の充実	巡回相談などの支援依頼に校内資源を活用して対応できた。	B	B	是非地域のニーズに応じてほしい。特に就学前の悩んでいる保護者の支援ニーズは大きい。

(4) 効率的な学校運営を目指し、職員の働きやすい職場環境の構築を推進する。（業務改善）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
(4)ア	信頼される学校づくり	加害交通事故・違反ゼロ	B	B	学校は狭く限定された世界。他業種からの評価や、違う角度から学校を見る視点を持ち続けることは重要。
(4)イ	多忙化解消に向けた業務改善の推進	会議が時間内に効率的に実施された。自分の業務が明確化され、見通しを持って実施できた。	B	B	企業では外部人材の講演会等を活用して、業務改善の意識を高める工夫をしている。削れる業務、支援員や外部人材の活用等の工夫が必要。学校内においては見えにくい。学校の外からの意見等も活用するとよい。
		定時退勤日が実施された。	A	B	